

週報

Rotary



福岡中央
ロータリークラブ

四つのテスト

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか



世界に希望を生み出そう

「CREATE HOPE in the WORLD」

2023-2024年度 国際ロータリー会長

R.Gordon R.McInally

「ロータリーを開き、ロータリーを前進させよう」

国際ロータリー第2700地区

2023-2024年度 ガバナー 吉田 知弘

「再び動かす我らの歴史」

2023-2024年度 福岡中央ロータリークラブ

会長 怡土 順治 幹事 泥谷 高博

本日の例会 令和6年3月4日(第2062回) VOL.47 No.27

卓話

「結果が出る自治体経営 ～都城フィロソフィを基軸として～」

都城市長 池田 宜永さん

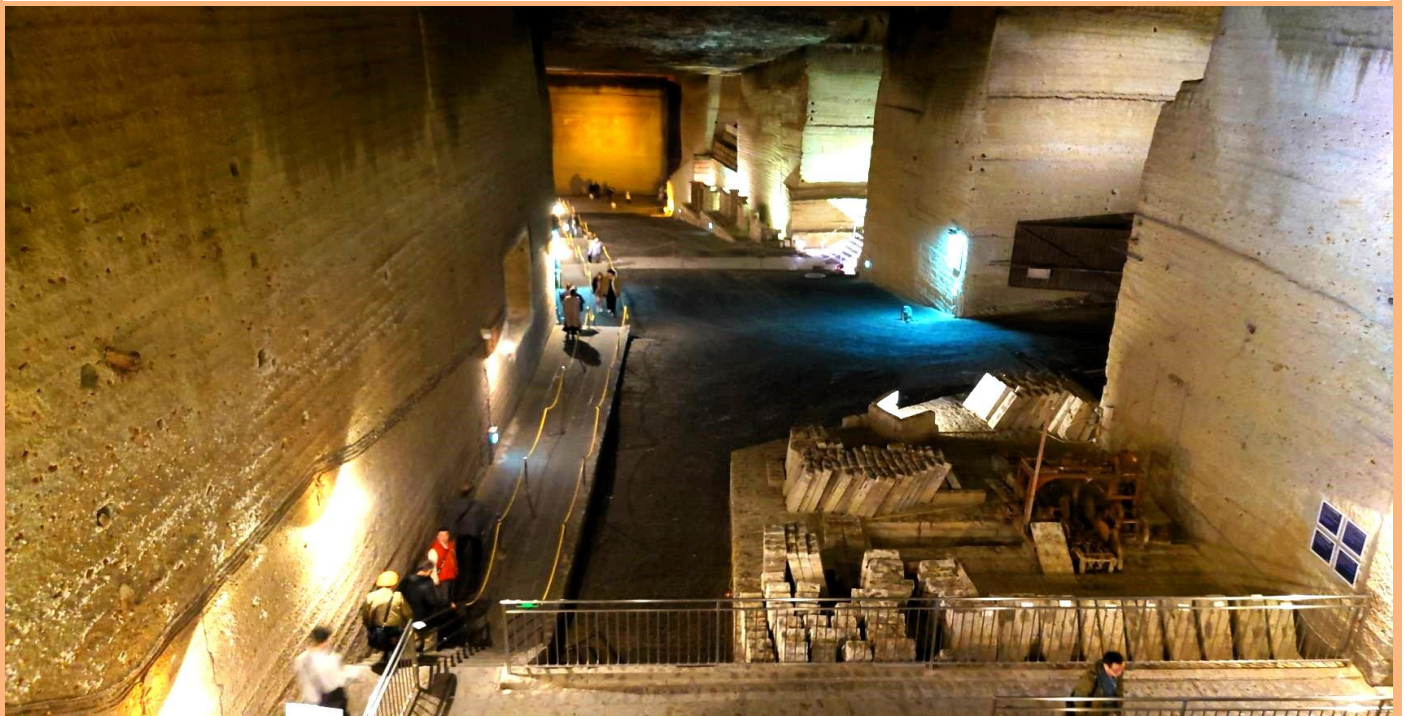
水と衛生月間

今後の
例会予定

- ・ 3月11日(月) 卓話 新会員自己紹介(原 志津子会員)
- ・ 3月18日(月) 卓話 福岡中央ロータリークラブ 江口 裕会員
- ・ 3月23日(土) 例会及び第5グループIM(11時～例会 13時～IM アクロス福岡4階)

「大谷資料館」

栃木県にある大谷資料館は大谷石の地下採掘場跡です。大谷石は素朴な風合いで、重量が軽く柔らかいため加工しやすく耐火性に優れています。そのため住宅・店舗の門柱や石塀、石垣などの建材として使用されています。地下採掘場跡は広さは約2万平方メートル、平均地下30メートルという地下にある巨大空間です。現在はコンサートや映画会、ドラマ・テレビCMの撮影が行われている場所です。 次田武史



例会日…毎週月曜日 12:30～13:30 例会場・事務局…西鉄グランドホテル

TEL 714-0305 FAX 714-0311 E-mail fukuoka-chuo-rc@wind.ocn.ne.jp HP <http://www.fukuoka-chuo-rc.jp>

前週例会の記録(2月26日)

出席報告

前回例会 2月26日	前々回例会 2月19日
会員数 53名	会員数 53名
出席会員 43名	出席会員 39名
ビジター他 1名	修正 4名
合計 44名	免除 1名
出席率 81.13%	修正後出席率 82.69%

会長の時間

怡土 順治会長

先日、家内と一緒に「ゴールデンカムイ」という映画を観にいきました。元々は「週刊ヤングジャンプ」に掲載されアニメ化もされた野田サトルの漫画を実写化したものです。どのような話かといえますと、明治時代後期の北海道を舞台に、日露戦争に従軍した元軍人とアイヌの少女、脱獄囚など、さまざまな思惑を持つ人々が、アイヌから奪われた金塊を巡り争奪戦を繰り広げる話です。その金塊の隠し場所ですが、脱獄した24人の囚人に入れ墨を彫り、その24人全員の入れ墨が揃うことで隠し場所がわかる…。私は生まれ育ちが北海道でしたので、アイヌの話をお子さんの頃から聞いていた事や、みなさんご存知の通り北海道の地名はアイヌ語を語源としたものが多いことから非常に興味がありました。映画は予想以上に面白く、2時間ちょっとの映画でしたが、あっという間でした。そこで、本日は意外と知られていない、わかっていないアイヌの事について話をしたいと思います。アイヌ民族は北海道の先住民族であることは聞いたことがあるかと思いますが、日本語と系統の異なる言語である「アイヌ語」をはじめ、自然界すべての物に魂が宿るとされている「精神文化」、祭りや家庭での行事などに踊られる「古式舞踊」、独特の「文様」による刺繍、木彫りの工芸など、固有の文化を発展させてきました。アイヌ語の特徴は、文字をもたず、口承によって伝えられてきました。こんにちには「イランカラプテ」、ありがとうは「イヤイライケレ」、山は「ヌプリ」、水は「ワッカ」。スキーで有名な「ニセコ」は「切り立った崖」を意味します。スキー場名の「ニセコアンヌプリ」は「切り立った崖がある山」となります。書くことより記憶することを大切にしてきましたが、アイヌ語に対する差別や学校教育でアイヌ語が使用されなかったこともあり約100年前から研究したり、知識を書き留めておくために、アイヌ語をカタカナやローマ字で書くようになりました。

我々が日ごろ使っている言葉。「言葉」は、新しい物や事柄、考え方が出現すると、それを他と区別するために言葉がでてきます。若者言葉なんて最たる例でしょう。例えば「話す」という言葉ですが、だれでも日常で使う重要語ですよ。ところが1,200~1,300年前の奈良時代にこの「話す」という言葉があったかどうかはよくわかりません。平安時代でもまだできていないらしいのです。なぜそんなことがわかるのかというと、当時の物語や記録に出てこないからです。口から言葉をだして、思いや考えを人に伝える行為は大昔からありました。そういうときは「話す」といわずになんといったと思いますか。その頃は「言う」とか「語る」を使っていました。つまり「話す」という言葉は、「言う」や「語る」の世界に後から加わったといえます。ではどうして「話す」ができたのでしょうか。「はなす」という言葉は「話す」しかないのでしょうか。辞書を開くと「放す」も「離す」も「はなす」ですね。考えてみると、「鳩を放す」「手を離す」も自由にするということでは同じです。この二語は、今でこそ違う漢字をあてはめることによって、微妙な使い分けをしていますが元々は一つの言葉なのです。では、「話す」はどうでしょうか。この「自由にする」と結びついているのでしょうか。“心の思いを自由にする”のが「話す」なのです。悩み事がある時、人は相談したり打ち明けたりしますね。あれが「話す」の基本なのです。心で思い、考えていることを言葉にして、心の外に出してしまうのが「話す」なのです。アイヌ語にも日本語から入った単語があります。アイヌ人は、農業をはじめはやっていませんでした。アイヌ語を調べてみると「メシ」という「ご飯」を表す言葉、「ムンギ」は「麦」、「アントウキ」は「小豆」、「イモ」は「芋」という具合です。日本語にある「空手」や「柔道」は世界でも通じる言葉になりました。今、NHKBSで「舟を編む」というドラマが放送されています。これは辞書を作る話なのですが、原作は三浦しおん。本で読んだり、すでに映画でご覧になられた事がある方もいらっしゃるかと思います。辞書はまさに言葉の宝庫。時間もありませんので最後に皆様に問題です。「右」という言葉がありますがこれをどうやって人に伝えますか？どう表現しますか？答えは辞書にあります。今日の会長の時間はここまでにしたいと思います。